

実施年度	実施主体	対象獣種
R8～R9	三重県	シカ、イノシシ

現状・課題

人口減少や高齢化等により捕獲者の減少が見込まれる中で、捕獲には経験や技術が必要で誰もが直ちにに取り組めるものではないため、従来の鳥獣被害対策を維持していくことは困難な状況にある。このため、経験や勘に依存してきた従来の捕獲手法を見直し、経験の浅い捕獲者でも効率的に捕獲ができる仕組みや見回り負担の軽減など、農地周辺での捕獲対策を維持・強化する取組の普及が求められる。

事業概要

データに基づき農地周辺での加害個体の捕獲を実施するため、

- ・センサーカメラ等により加害個体の侵入経路を把握し、被害状況や柵の設置管理状況と併せてGIS上に図示・共有し、捕獲計画を策定、
- ・ICTわなによる捕獲（捕獲通知機器や自動撮影カメラ等による見回り負担の軽減、獣サイズ判別センサー式自動捕獲システムによる箱わなの捕獲力向上）、
- ・GPS発信機による加害個体の行動範囲の特定と捕獲適地の検討、
- ・捕獲情報や対策後の被害状況をGIS上に図示し、効果的な捕獲が行えているか関係者での効果検証、これを踏まえた次期対策の検討等を実施。

活用機器 ※交付金活用外の機器を含む

- ・GPS首輪発信機
- ・捕獲通知機器
- ・自動撮影カメラ
- ・獣サイズ判別センサー式自動捕獲システム

モデル地区の普及範囲

取組発表や視察の受け入れ等により他地域への普及を図る

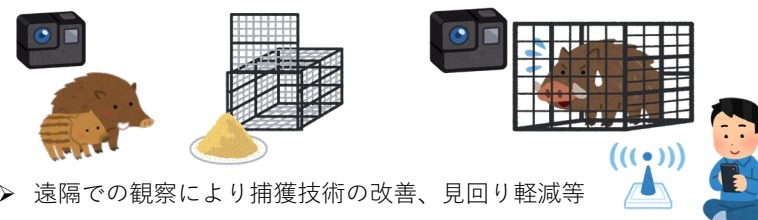
【イメージ】

ICT機器等によるデータをもとに捕獲計画の策定



被害等調査

通信機能付き自動撮影カメラなどを活用した捕獲



➤ 遠隔での観察により捕獲技術の改善、見回り軽減等

効果確認

捕獲効率、見回り労力、被害程度の確認

➤ データを可視化して、被害減少につながっているか確認

次の対策

捕獲計画の策定・対策の改善（PDCA）に活用